



みどり



117号『心不全』

2017年12月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

本年（2017年）10月31日、日本循環器学会と日本心不全学会から、「心不全」の新しい定義が発表されました（表1）。

表1. 「心不全」の定義

心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です

高齢化に伴い、心不全は増加傾向にあります。国内の患者数は推計年間100万人で、発症すると5年生存率は約50%と、決して予後の良い疾患ではありません。しかし、その事実や心不全の病態、症状、治療については、あまり知られていません。国民の理解が深まるよう、新しい定義ではわかりやすい言葉が使われています。

心不全は病名ですか？

医学の専門用語としては、心不全は「病気」ではありません。しかし、心臓が悪いことを総合的に表現する言葉として、新しい定義では「病気」と表現されています。

“心臓が悪いため”とは？

心臓は、血液を全身に送り出すポンプの機能を持っています。その機能が様々な原因によって発揮されなくなることがあり、その状態を「心臓が悪いために」と表現されています。

心不全を引き起こす原因となる代表的な疾患を表2に示します。

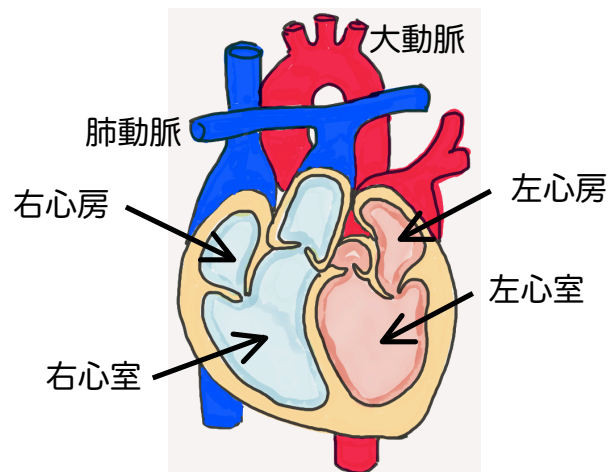
表2. 心不全の主な原因

- ①高血圧
- ②心筋症：心臓の筋肉自体の病気
- ③虚血性心疾患：心臓を栄養している血管の病気
- ④弁膜症：弁の異常による異常
- ⑤不整脈：脈が乱れる病気
- ⑥加齢

* * *

心臓は、4つの部屋（右心房、右心室、左心房、左心室）で構成され、その壁を構成しているのは筋肉（心筋）です（図）。心筋が規則的に収縮と拡張を繰り返すことにより、血液を全身に供給するポンプとして機能しています。

図. 心臓の構造



右心室は肺動脈で肺につながり、左心室は大動脈で全身につながっています。右心系と左心系

は構造的に完全に分かれています。心房-心室間や心房、心室とつながっている動静脈の間には弁があり、血液が逆流しないようになっています。

心不全の症状は？

心不全の初期に見られる症状として頻度が高いのが、運動時の息切れ、両下肢（特に下腿の前面）や足背（足の甲）の浮腫（むくみ）です。浮腫は両側に出現することが特徴です。いずれも心不全以外の疾患でも生じる症状ですので、精査が必要になります。

心不全の診断のための検査は？

1) 画像検査

胸部レントゲン検査では、心陰影拡大や肺静脈のうっ血所見の有無などを確認します。

心エコー検査では、心臓の収縮・拡張能や弁の動きなどを評価します。

心不全の原因を診断する目的で、心電図検査、CT・MRI検査、心臓核医学検査、心臓血管カテーテル検査を行うこともあります。

2) 血液検査

BNP (Brain Natriuretic Peptide; 脳性ナトリウム利尿ペプチド) や NT-proBNP (N-terminal-proBNP) は、心不全の病態を反映するマーカーで、血液検査で測定可能です。

一般的な血算、生化学的検査も、心不全の評価、原因検索に有用です。

心不全の治療は？

心不全の治療は原因となっている疾患によって異なります。内服薬による内科的治療、ペースメーカー、外科手術や、適応は限られますが心臓移植があります。

心不全の経過は？

心不全を発症しても、適切な治療を受けることで、一旦症状は改善します。しかし残念ながら、一度ポンプとしての機能に障害をきたした

心筋が完全に元に戻ることはありません。

過労、塩分や水分の過剰摂取、感冒など感染症への罹患などで心不全の症状が再燃、悪化することがあります。安静、原因の除去や治療の強化で心不全の症状は再度改善します。しかし、悪化と改善を繰り返しながら、徐々に心機能は低下していきます。

* * *

心不全の経過において、「急性心不全」「慢性心不全」という言葉が使われることがあります。

「急性心不全」は、それまで悪くなかった心機能が急に悪化した状態を言います。いわゆる“急性期”の状態です。新たに心不全を発症した場合も、治療により安定していた心不全が悪化した場合もあります。激しい息苦しきで発症することが多く、適切な治療を受けないと命に関わる重篤な状態になることがあります。

急性期を乗り切ると、その後は慢性心不全の状態になります。

心不全は予防できる？

心不全の発症予防と、心不全の進行・悪化予防の二つがあります。

1) 心不全の発症予防

心機能が悪化する要因の除去が重要です。高血圧、糖尿病、脂質異常症を未然に防ぐことや早期治療は心不全の発症予防に繋がります。そのためには、日常生活において禁煙、減塩、節酒、適度な運動を心がけることが重要です。

2) 心不全の進行・悪化予防

上記に加えて、過労、水分の過剰摂取を避けること、また冬季には感冒などの感染症への罹患を契機に心不全が悪化することが多いため、それらの予防も重要です。治療薬を正しく服用することも大切です。

(文責：金子 由夏)